

令和2年度 第1回 江戸川区熟年しあわせ計画及び 介護保険事業計画検討委員会

令和2年7月17日 午後7時
グリーンパレス5階「孔雀」

1 開 会

2 区長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 交代委員の紹介

5 議 事

(1) 第8期計画の方向性と検討委員会スケジュールについて

(2) 生きがい施策の推進について（介護予防・健康づくり施策の充実・推進）

(3) 地域共生社会の実現に向けた取組の推進について

6 その他

7 閉 会

(配付資料)

資料1 検討委員会委員名簿

資料2 第8期計画に向けて

資料3 検討委員会スケジュール（予定）

資料4 基礎調査報告書「区民向け5調査間の比較結果」（抜粋）

資料5 状態別の各施策の実施状況

資料6-1 元気施策の現況と今後の方向性

資料6-2 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の現況と今後の方向性

資料6-3 健康寿命延伸のための健診及び保健事業の現況と今後の方向性

資料7 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（概要）

資料8 生きがい施策の推進

資料9 江戸川区の地域共生社会構築への取組（なごみの家 運営事業）

資料10 「なごみの家」の現況と今後の方向性

本日の論点について

1 生きがい施策の推進（介護予防・健康づくり施策の充実・推進）	
【課題】 自分らしく「生きがい」をもって、いきいきと生活するために・・・	
①	多様化するニーズに対応する生きがいづくりとは
②	参加しない人に対するアプローチについて、どのようなものが考えられるか。
2 地域共生社会の実現に向けた取組の推進	
【課題】 お互いが支えあう地域づくりを具現化するため、また、今後さらに地域共生社会の構築を進めていくために・・・	
①	地域住民が主体となって地域づくりに取り組み、参画していただくための方策は何か。
②	支援が必要と感じていない人、支援を拒む人への支援の方策としてはどのようなものが考えられるか。
③	取組の普及・啓発について、なごみの家の活動も含め、効果的な方策は何か。

江戸川区熟年しあわせ計画及び
介護保険事業計画検討委員会委員名簿

	氏 名	所属等
学識経験者	○ 太 田 貞 司	神奈川県立保健福祉大学
	澤 岡 詩 野	ダイヤ高齢社会研究財団
医療保健 関係者	◎ 小 川 勝	江戸川区医師会
	○ 浅 岡 善 雄	
	金 沢 紘 史	江戸川区歯科医師会
	篠 原 昭 典	江戸川区薬剤師会
	藤 井 かおる	東京都医療社会事業協会
	上 村 和 子	江戸川区訪問看護ステーション連絡会
社会福祉 関係者	林 義 人	江戸川区熟年者福祉施設連絡会
	三 田 友 和	NPO法人江戸川区ケアマネジャー協会
	江 面 秀 樹	江戸川区訪問介護事業者連絡会
	梅 澤 宗一郎	江戸川区地域密着型サービス事業者連絡会
	館 山 幸 子	熟年相談室（地域包括支援センター）
	大 越 利依子	江戸川区生活支援協議会
	山 口 昌 一	江戸川区民生・児童委員協議会
	山 崎 実	江戸川区社会福祉協議会
区 民 (被保険者)	寺 本 孝 行	公 募
	片 岡 英 枝	
	菊 地 智 恵	
	池 山 恭 子	
	中 川 泰 一	江戸川区連合町会連絡協議会
	村 田 清 治	江戸川区くすのきクラブ連合会
	石 井 恵 子	江戸川区ファミリーヘルス推進員会協議会
区議会議員	白 井 正 三 郎	江戸川区議会議員
	佐々木 勇一	江戸川区議会議員
行政代表	山 本 敏 彦	江戸川区副区長
合計	26人	

※◎は委員長、○は副委員長

第8期計画に向けて

国	介護保険制度の見直しに関する意見より (R1.12.27 社会保障審議会 介護保険部会資料)										
	<地域共生社会の実現と2040年への備え> 今回の制度見直しは、2025年に向けた地域包括ケアシステムの推進や介護人材不足等に対応するとともに、2040年を見据え、地域共生社会の実現を目指し、制度の持続可能性を確保しながら、自立支援・重度化防止や日常生活支援等の役割・機能を果たし続けられるよう制度の整備や取組の強化を図るものである。										
	第8期計画の基本指針において記載を充実する事項 (R2.2.21 社会保障審議会 介護保険部会資料)										
	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="241 746 1615 836"> ① 介護予防・健康づくり施策の充実・推進 ② 地域共生社会の実現 </td> <td data-bbox="1615 746 1957 836"> } 第1回 検討委員会 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="241 836 1957 852">-----</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 852 1615 979"> ③ 2025・2040年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備 ④ 地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び業務効率化の取組の強化 ⑤ 有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅に係る都道府県・市町村間の情報連携の強化 </td> <td data-bbox="1615 852 1957 979"> } 第2回 検討委員会 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="241 979 1957 995">-----</td> </tr> <tr> <td data-bbox="241 995 1615 1050"> ⑥ 認知症施策推進大綱等を踏まえた認知症施策の推進 </td> <td data-bbox="1615 995 1957 1050"> } 第3回 検討委員会 </td> </tr> </table>	① 介護予防・健康づくり施策の充実・推進 ② 地域共生社会の実現	} 第1回 検討委員会	-----		③ 2025・2040年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備 ④ 地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び業務効率化の取組の強化 ⑤ 有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅に係る都道府県・市町村間の情報連携の強化	} 第2回 検討委員会	-----		⑥ 認知症施策推進大綱等を踏まえた認知症施策の推進	} 第3回 検討委員会
① 介護予防・健康づくり施策の充実・推進 ② 地域共生社会の実現	} 第1回 検討委員会										

③ 2025・2040年を見据えたサービス基盤、人的基盤の整備 ④ 地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び業務効率化の取組の強化 ⑤ 有料老人ホームとサービス付き高齢者向け住宅に係る都道府県・市町村間の情報連携の強化	} 第2回 検討委員会										

⑥ 認知症施策推進大綱等を踏まえた認知症施策の推進	} 第3回 検討委員会										
区	第8期計画の方向性										
	今後少子高齢化が進む中で、働く世代が減少し高齢者一人を2.4人で支える2040年、さらには2.2人で支える2100年までを見据え、中長期的な視野に立ち、お互いが支えあう地域共生社会の実現を目指すとともに、介護保険制度の持続可能性を確保しながら保健福祉施策の更なる充実を図る。										

令和2年度 熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画
検討委員会スケジュール（予定）

	日程/場所	主な議題
	5月29日(金) (中止) ⇒資料送付 のみ	<送付資料> ・検討委員会の役割 ・介護保険制度改正の動向 ・人口、高齢化率等の推計 ・基礎調査の報告書
第1回	7月17日(金) 19:00～ グリーンパレス 孔雀1・2	第8期計画の方向性と検討委員会スケジュール 生きがい施策の推進(介護予防・健康づくり施策の充実・推進) 地域共生社会の実現に向けた取組の推進
第2回	8月21日(金) 19:00～ タワーホール 瑞雲	中長期的な視野に立った介護サービス基盤、人的基盤の整備 ・居宅サービス、施設整備の考え方 ・介護人材の確保、業務効率化の取組の強化 在宅医療・介護連携のさらなる推進 安心して住み続けられる住まいの確保
第3回	9月15日(火) 19:00～ グリーンパレス 孔雀1・2	認知症施策推進大綱等を踏まえた認知症施策の推進 高齢者虐待対応・権利擁護 給付と負担の考え方 中間のまとめ骨子(案)
	11月頃	「中間のまとめ」作成
第4回	2月上旬	令和2年度の進捗について 第8期計画案の検討
	2月頃	計画案のパブリックコメント
第5回	3月上旬	計画案の報告 パブリックコメントの結果報告・検討委員会まとめ

第6章

区民向け5調査間の 比較結果

※区民を対象とした5調査間の比較結果では、各調査名を下記のとおり省略して表記する。

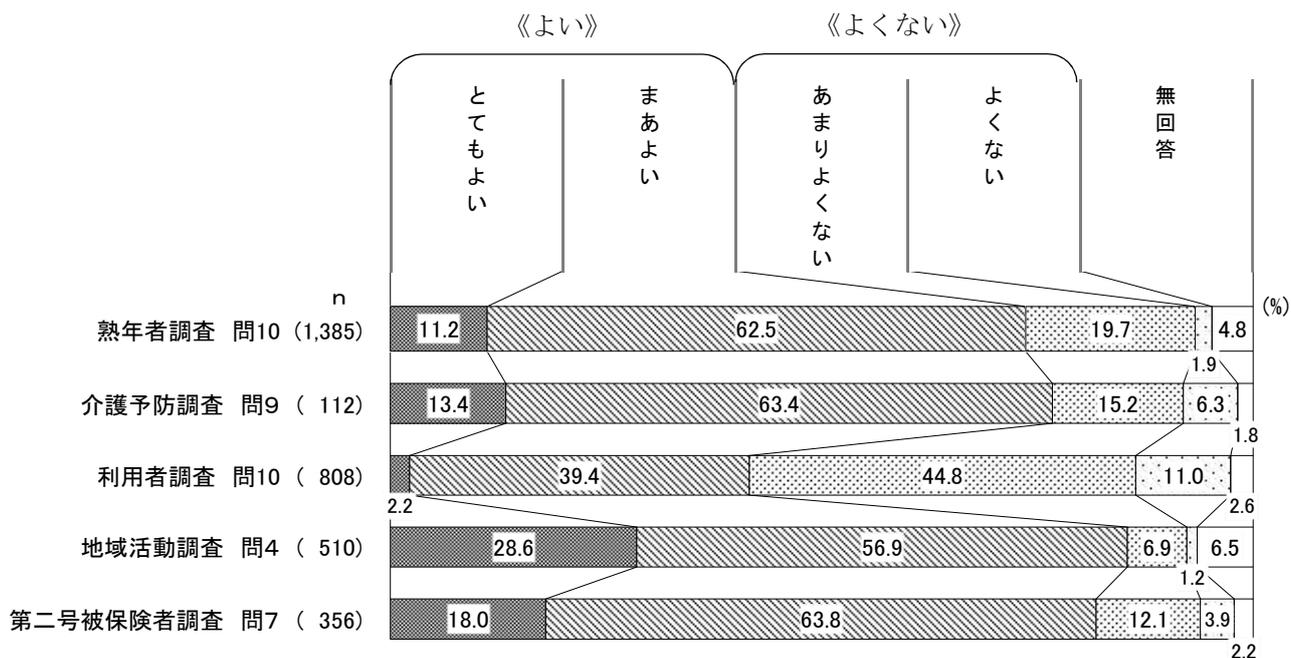
「熟年者の健康と生きがいに関する調査」	⇒【熟年者調査】
「介護予防に関する調査」	⇒【介護予防調査】
「介護保険サービス利用に関する調査」	⇒【利用者調査】
「熟年者のお元気度チェック調査」	⇒【地域活動調査】
「介護保険制度と介護予防に関する調査」	⇒【第二号被保険者調査】

1 健康について

(1) 健康状態

健康状態が「とてもよい」は、【地域活動調査】で28.6%と最も高くなっている。《よい》としてみると、【地域活動調査】で85.5%と最も高く、次いで【第二号被保険者調査】で81.8%となっている。一方、《よくない》は【利用者調査】で最も高く55.8%となっている。

図表2-1 健康状態

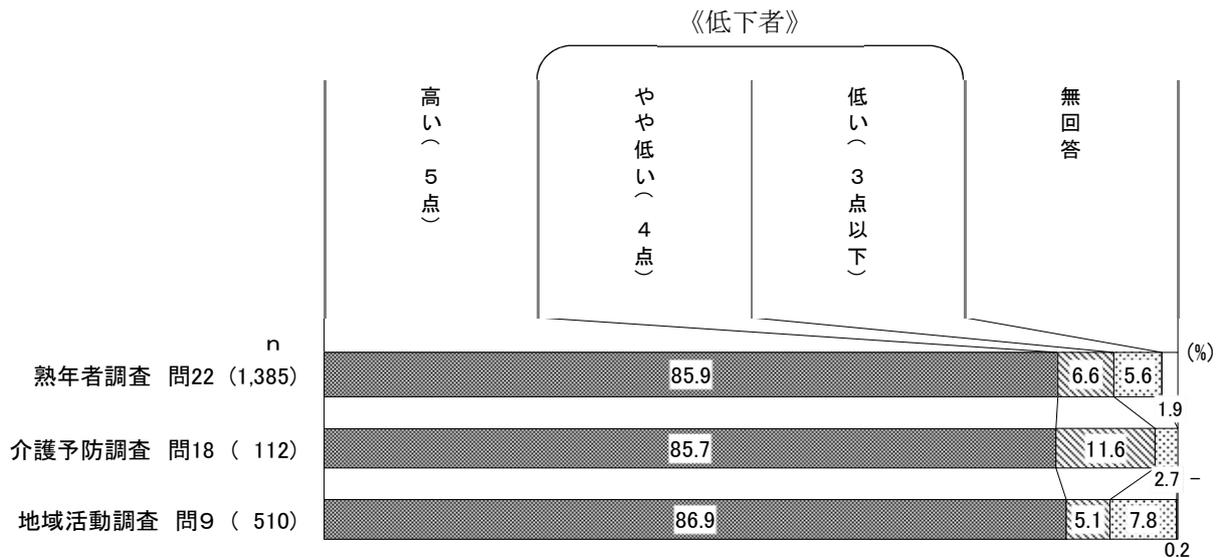


2 日常生活について

(1) 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度の評価

手段的日常生活動作 (IADL) の自立度の評価は、「高い (5点)」がいずれの調査でも8割台半ばと、おおむね並んでいる。

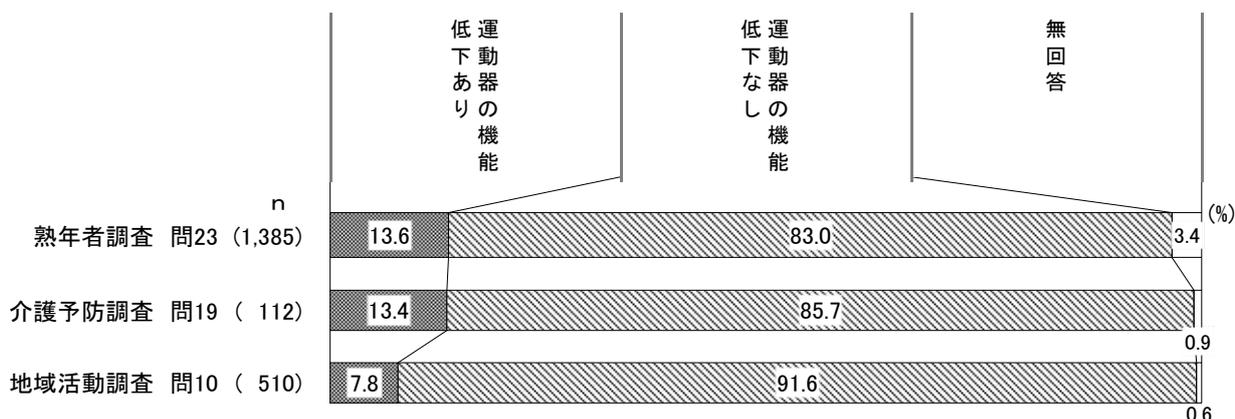
図表3-1 手段的日常生活動作 (IADL) の自立度の評価



(2) 運動器機能の評価

運動器機能の評価は、いずれも「運動器の機能低下なし」が8割から9割台と多数を占めている。「運動器の機能低下あり」は、【熟年者調査】と【介護予防調査】で1割台半ばである。

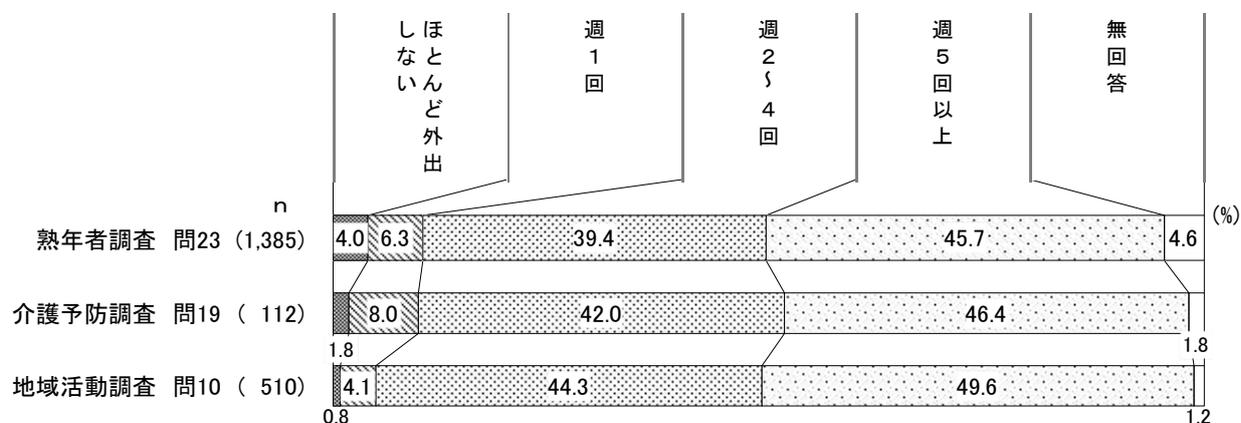
図表3-2 運動器機能の評価



(3) 週に1回以上の外出

週に1回以上の外出の設問は、「ほとんど外出しない」か「週1回」に該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向のある高齢者と考えられる。【熟年者調査】では「ほとんど外出しない」が4.0%、「週1回」が6.3%、【介護予防調査】では「ほとんど外出しない」が1.8%、「週1回」が8.0%となっている。また、【地域活動調査】であっても、「ほとんど外出しない」が0.8%、「週1回」が4.1%みられる。

図表3-3 週に1回以上の外出

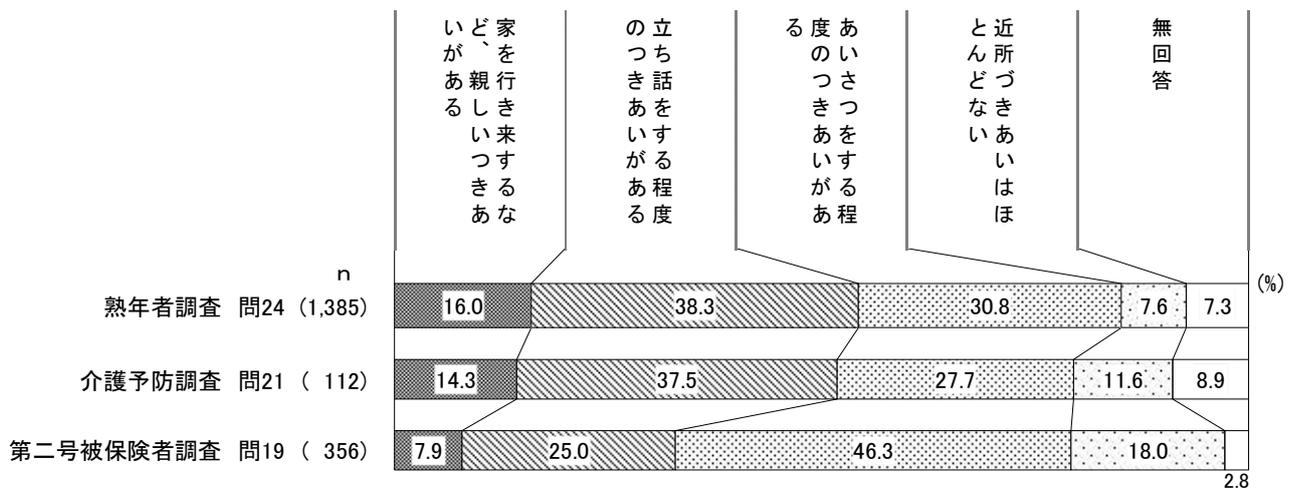


3 社会参加、生きがいづくりについて

(1) 近所の人とのつきあいの程度

「家を行き来するなど、親しいつきあいがある」と「立ち話をする程度のつきあいがある」は、【熟年者調査】、【介護予防調査】、【第二号被保険者調査】の順で低くなっている。【第二号被保険者調査】では、「立ち話をする程度のつきあいがある」よりも「あいさつをする程度のつきあいがある」が高く46.3%である。

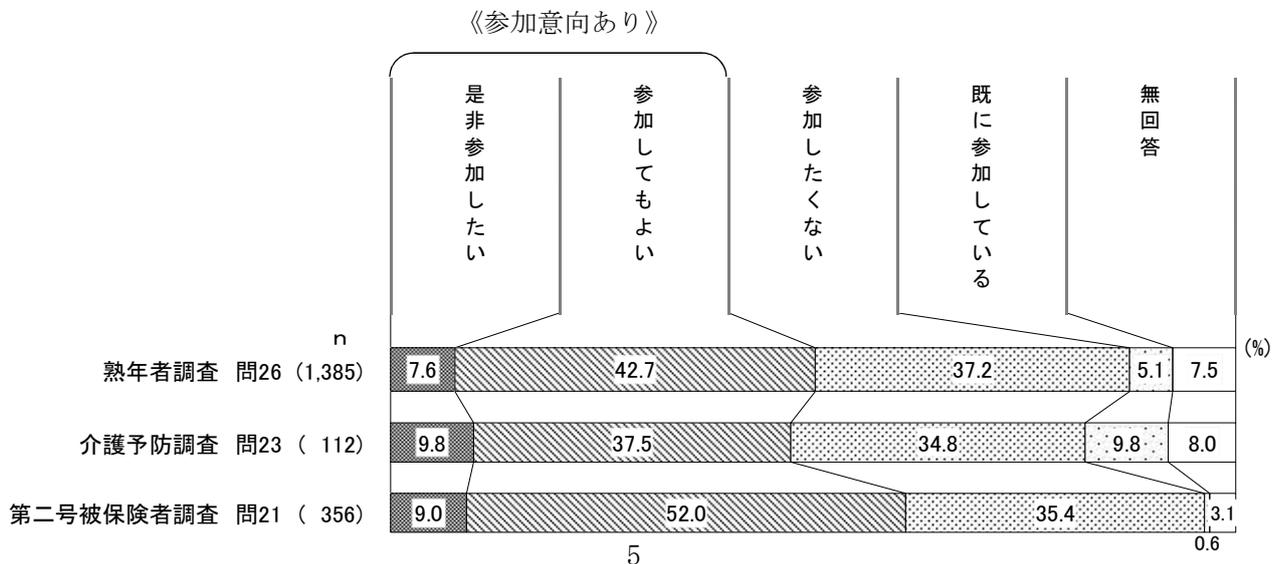
図表4-1 近所の人とのつきあいの程度



(2) 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向

《参加意向あり》は、【第二号被保険者調査】で61.0%と最も高く、次いで【熟年者調査】で50.3%、【介護予防調査】で47.3%となっている。一方、いずれの調査でも「参加したくない」は3割台半ばとおおむね並んでいる。

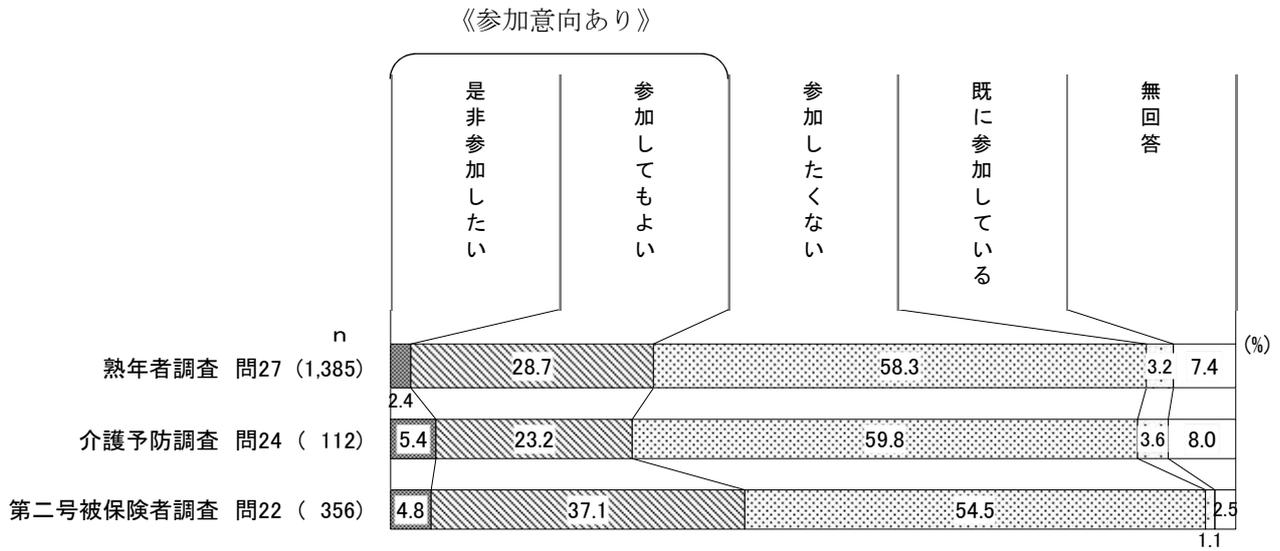
図表4-2 地域づくりを進める活動への参加者としての参加意向



(3) 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向

《参加意向あり》は、【第二号被保険者調査】で41.9%と最も高く、次いで【熟年者調査】で31.1%、【介護予防調査】で28.6%となっている。いずれの調査でも「参加したくない」が5割以上で高くなっており、特に、【熟年者調査】と【介護予防調査】は約6割である。

図表4-3 地域づくりを進める活動への企画・運営者としての参加意向



(1) くすのきクラブへの支援

「くすのきクラブ」の活動をとおして、熟年者が地域において健康で生きがいのある生活が送れるよう、クラブの活動に対して助成を行った。

くすのきクラブ 対象者：60 歳以上			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
クラブ数	199 団体	199 団体	199 団体
会員数	17,000 人	17,100 人	17,200 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
198 団体 17,005 人	195 団体 16,498 人	200 団体 16,278 人	195 団体 15,358 人

(2) リズム運動の推進

リズム運動の実施をとおして、熟年者の健康増進や仲間づくりを支援した。また、リズム運動参加者の拡大を図るため、PRの強化を図るとともに、経験のない方を対象とした各種初心者教室（男性のみを対象とした教室も含む。）や地区リズム運動教室などを開催した。

リズム運動 対象者：60 歳以上			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
実施会場数	213 か所	213 か所	213 か所
参加団体数	224 団体	224 団体	224 団体
参加者数	11,400 人	11,500 人	11,500 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
213 か所 228 団体 11,303 人	212 か所 228 団体 11,023 人	211 か所 227 団体 10,468 人	214 か所 228 団体 10,024 人

(3) 熟年者向け地域情報誌の配布

区内のイベント、地域活動を紹介する地域情報誌を、当年度 64 歳になる熟年者に直接送付し、地域デビューを促進した。

熟年者向け地域情報誌			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
発行部数	20,000 冊	20,000 冊	20,000 冊
配布対象者数	6,500 人	6,500 人	6,400 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
10,000 冊 6,242 人	12,000 冊 6,016 人	12,000 冊 5,926 人	12,000 冊 6,400 人

(4) 熟年者の参加を促進する行事の実施

熟年者が日頃の学習・活動成果を発表する「熟年文化祭」や、自らの健康増進と世代間交流を図る「さわやか体育祭」等の開催をとおして、熟年者の社会参加や地域交流を推進し、生きがいを支援した。

リズム運動大会			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	5,000 人	5,000 人	5,000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
5,000 人	5,000 人	5,000 人	5,000 人
さわやか体育祭			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	7,000 人	7,000 人	7,000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
7,500 人	8,000 人	中止	中止
熟年文化祭			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	6,000 人	6,000 人	6,000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
6,000 人	6,000 人	6,000 人	6,000 人

課題と今後の方向性

- くすのきクラブは、各クラブの活性化を図るため、全体研修会の開催等を通して、クラブ間の交流や情報交換をする機会を増やす必要がある。また、引き続き会員数の増加に向けて、入会促進キャンペーンの実施や、ボッチャ競技など新たな活動を推進する。
- リズム運動は、参加者が無理なく継続できるように、各種初心者教室やスキルアップ教室等を開催することに加えて、地域イベントやPRステージ等の機会を活用し、広報活動の強化を図る。
- 熟年者向け地域情報誌は、令和元年度に行った読者アンケートの結果を参考にしながら、新たな視点や誌面の充実を検討する。
- 熟年者の参加を促進する行事は、引き続き内容の改善を行いながら実施していく。

(5) くすのきカルチャー教室の充実

熟年者が、健康で充実したしあわせな人生を送ることができるよう、生きがいや仲間づくりのきっかけとなる、趣味や教養の学習の機会と場を提供した。正規教室終了後は、自主性・自立性を高めて生涯現役として活躍できるよう、自主活動教室を支援した。

くすのきカルチャー教室（正規教室）			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	2,930 人 101 教室	2,930 人 101 教室	3,000 人 97 教室
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
2,214 人 98 教室	1,679 人 86 教室	1,904 人 106 教室	1,491 人 75 教室
くすのきカルチャー教室（自主教室）			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	5,100 人 268 教室	5,100 人 268 教室	4,300 人 215 教室
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
4,531 人 223 教室	4,550 人 237 教室	3,914 人 215 教室	3,838 人 215 教室

課題と今後の方向性

○くすのきカルチャー教室では、受講生が定員を下回る教室があることから、受講可能となる年齢制限の撤廃、夜間教室の実施等を行い、幅広い世代に利用していただけるよう、今後も工夫をしていく。

(6) シルバー人材センターへの支援

熟年者の「知識・経験・能力」を活かし、就業機会を確保・提供している公益社団法人シルバー人材センターの事業を支援することにより、熟年者の生きがいづくりと社会参加を促進した。

シルバーお助け隊については、短時間で終わる簡易な仕事（例：電球取替え、家具移動、浴槽清掃など）について、人手の確保が困難な熟年者のみの世帯等を対象に、シルバー人材センターの会員を派遣した。

シルバー人材センター 対象者：60歳以上			
会員数 就業延人員数 (派遣事業人員含む)	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	4,200人 34,500人 (35,500人)	4,200人 34,700人 (35,700人)	4,200人 35,000人 (36,000人)
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
3,941人 34,770人 (34,821人)	3,696人 35,468人 (35,512人)	3,741人 34,880人 (34,967人)	3,800人 29,300人 (29,605人)
シルバーお助け隊			
実施件数 就業延会員数	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	720件 750人	720件 750人	720件 750人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
659件 684人	589件 624人	499件 519人	200件 210人

課題と今後の方向性

- 会員増強への取組として、これまで未実施の区内事務所や民間複合施設でのPR活動を展開する。
- 新規の公共事業の受注拡大に取り組む必要がある。
- 新型コロナウイルスにより中断している就業について、安全対策を徹底したうえで再開するよう努める。
- 契約件数・金額ともに伸びている派遣事業を引き続き開拓していく必要がある。

<参考>

シルバー人材センター 介護事業所の請負・派遣（介護助手など）			
就業延実人員	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
	503人	723人	606人

介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）の現況と今後の方向性

介護予防・日常生活支援総合事業は、住民等の多様な主体が参画し、多様なサービスを充実することで、地域のささえあい体制づくりを推進し、元気な高齢者をはじめ要支援者等に対し効果的に支援していくことを目的とする。

（１）介護予防・生活支援サービス事業

対象者：①要支援 1、2 ②基本チェックリストにより生活機能の低下がみられた方

訪問型サービス（国基準と同等又は緩和型サービス）			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	22,934 件	24,081 件	25,285 件
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
21,770 件	20,906 件	19,751 件	21,580 件
通所型サービス（国基準と同等又は緩和型サービス）			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	44,624 件	47,748 件	51,185 件
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
28,420 件	37,926 件	38,801 件	40,314 件
介護予防ケアマネジメント			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	53,710 件	58,830 件	64,462 件
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
31,899 件	39,505 件	39,206 件	41,593 件

※訪問型サービスは、平成 29 年度までは介護予防訪問介護相当として実施した

※通所型サービスは、平成 29 年度までは介護予防通所介護相当として実施した

提供事業所数

訪問型サービス（国基準と同等又は緩和型サービス）				各 4 月 1 日現在
平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
133 事業所	135 事業所 国基準と同等 133 事業所 緩和型サービス 2 事業所	140 事業所 国基準と同等 138 事業所 緩和型サービス 2 事業所	142 事業所 国基準と同等 140 事業所 緩和型サービス 2 事業所	
通所型サービス（国基準と同等又は緩和型サービス）				
平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	
145 事業所	172 事業所 国基準と同等 153 事業所 緩和型サービス 19 事業所	181 事業所 国基準と同等 152 事業所 緩和型サービス 29 事業所	181 事業所 国基準と同等 154 事業所 緩和型サービス 27 事業所	

課題と今後の方向性

○利用件数については計画未達であるものの、通所型サービスを中心に、介護事業者に加え NPO 団体など多様な主体による多様なサービスが創設されるなど所期の目的に沿った推移となっている。今後も、多様な主体による多様なサービスの導入を推進していくとともに、熟年相談室による地域ケア会議を活用した介護予防ケアマネジメントの検証などにより、利用者の状態像やニーズに応じたサービス提供に努める。

(2) 一般介護予防事業

対象者：65歳以上の全ての方及びその支援のための活動に関わる方

介護予防教室			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	3,000人	3,000人	3,000人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
2,079人	2,266人	1,994人	2,000人
熟年介護サポーター			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	500人	550人	600人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
430人	416人	448人	450人
介護予防把握事業実施者数			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	75,650人	75,950人	78,000人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
75,354人	75,070人	74,244人	78,000人
にこにこ運動教室			
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
2,910人 46回	12,856人 455回	13,702人 449回	7,210人 276回*
口腔ケア健診 対象：65歳以上 ※一般介護予防事業対象者以外も含む			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	継続	継続	継続
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
未実施	7,686人	7,540人	11,310人

*新型コロナウイルス感染予防のため、一部中止した。

課題と今後の方向性

○介護予防に関する普及啓発とともに、社会性や運動機能などの課題に即した取組を実施している。今後も、熟年健診において心身機能の低下が心配される熟年者を把握するなど、保健事業と介護予防事業、さらには生きがい施策と一体的に実施することにより、地域での活動も含め、取組への参加を支援、促進していく。

健康寿命延伸のための健診及び保健事業の現況と今後の方向性

(1) 健康寿命延伸のための健診（検診）

区民の健康増進のため、年齢や対象にあわせた健康診査(健診)やがん検診を実施し、生活習慣病の予防及びがんの早期発見・早期治療を促進した。

65歳以上の方には体重や筋肉量の減少、低栄養、口腔機能の低下等によるフレイル等の予防・改善に着目した健康診査を行った。

長寿健康診査 対象者：75歳以上及び後期高齢者医療制度加入の65歳以上			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	45,900人	47,900人	48,900人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
40,737人	42,023人	42,867人	46,100人
国保健診 対象者：国保加入の40～74歳			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	48,000人	45,000人	43,000人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
49,317人	46,864人	43,132人	45,000人
口腔ケア健診 対象者：65歳以上			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	実施	継続	継続
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
---人	7,686人	7,540人	11,310人

課題と今後の方向性

- 国保健診、長寿健診の受診率を上げることが、生活習慣病の早期発見、早期治療につながることから、健診に関する普及啓発、受診勧奨の方法などを工夫する必要がある。
- 口腔ケアはフレイル予防に非常に有効である。一人でも多くの方に口腔ケア健診について知ってもらう取組が課題である。

(2) 健康寿命延伸のための相談等の充実

生活習慣病やフレイルの予防のために、年齢等に応じた食事や運動などの生活習慣改善支援を行った。

国保健診 特定保健指導 対象者：国保加入の40～74歳			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	1,900人	2,500人	2,500人
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
2,112人	2,042人	1,049人	2,059人

課題と今後の方向性

○令和元年度より、動機付け支援の支援期間を6か月から3か月に短縮したことに伴い、完了率が伸びることが見込まれる。完了率を上げるだけでなく、短期間でも効果的な支援が必要である。国でも今後の保健指導の手法についての検討が始まっており、注視していく。

(3) 8020運動の推進

歯周疾患をはじめとする口腔疾患の予防と、熟年者の歯の保持を目標とする「8020（ハチマルニイマル）運動」の推進に、歯科医師会や地域と連携して取り組んだ。

8020運動の周知・啓発			
	平成30年度計画	令和元年度計画	令和2年度計画
	充実	充実	充実
平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度見込み
4,676人	4,203人	3,766人	4,000人

課題と今後の方向性

○8020運動の推進に伴い、自分の歯が多く残っている人が増加している。歯を失う原因として、歯周疾患だけでなくむし歯の予防も重要となる。口腔疾患の予防に加え「噛む」「のみこむ」など口腔機能の低下を予防し、生涯を通じて食事や会話をすることを楽しめるように支援する。

(4) 感染症予防対策の充実

65 歳以上の熟年者を対象にインフルエンザ予防接種を一部公費負担で実施した。また、肺炎球菌による肺炎予防のため、65 歳以上の方に高齢者肺炎球菌予防接種の一部公費負担も実施した。

熟年者インフルエンザ予防接種接種者			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	62, 100 人	63, 000 人	64, 000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
58, 706 人	60, 383 人	64, 853 人	61, 252 人
熟年者肺炎球菌予防接種接種者			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	9, 200 人	2, 000 人	2, 000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
9, 145 人	8, 189 人	3, 241 人	6, 493 人

課題と今後の方向性

○肺炎球菌について、法改正により令和元年度～令和 5 年度の対象者が当初に比べ拡大されたため、より丁寧な説明と周知が必要である。

(5) 健康学習の場と機会の提供

健康知識や健康に過ごす方法などを幅広く学ぶ場として、区民が必要とする知識を、より身近な地域で得られるような場の設定と機会の提供等を行い、区民一人ひとりの健康づくりを支援した。

地域健康講座			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	15 回 600 人	15 回 600 人	15 回 600 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
30 回 1195 人	54 回 1507 人	32 回 1274 人	10 回 100 人
ファミリーヘルス健康講座			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	55 回 3, 000 人	55 回 3, 000 人	55 回 3, 000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
70 回 3668 人	59 回 3054 人	58 回 2512 人	15 回 375 人

課題と今後の方向性

○区民一人ひとりの健康づくりを支援するため、身近な地域で健康知識を得られる場と機会の提供を継続していく。

(6) ウォーキングの推進

熟年者でも無理なく手軽に行え、健康増進効果が高いウォーキングを、地域における健康づくり運動として推進した。

健康ウォーキング大会参加者数			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	4,800 人	4,800 人	4,800 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
3,983 人	3,527 人*1	0 人*2	4,000 人

*1 中央は雨天実施のため、例年の 3 分の 1 程度の参加だった。

*2 新型コロナウイルス感染予防のため全会場で中止した。

課題と今後の方向性

○ウォーキングを通じて地域での自主的な健康づくりの輪が広がるよう支援をしている。感染症予防対策を考慮した新たなウォーキングの形を研究し、普及する。

(7) 地域ミニデイサービス実施への支援

虚弱な熟年者の閉じこもり予防と、地域住民との交流をとおした仲間づくりを支援するため、身近な町会会館などを利用して会食や趣味活動、健康づくりなどを行う地域ミニデイサービスの実施を支援した。

地域ミニデイサービス か所数			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	37 か所	37 か所	37 か所
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
36 か所	35 か所	35 か所	35 か所
地域ミニデイサービス 開催回数・参加者数			
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
351 回 延べ 8168 人	359 回 延べ 8576 人	320 回*1 延べ 7291 人	177 回*2 延べ 1025 人

*1 新型コロナ感染拡大のため、R2 年 3 月は全休止

*2 新型コロナ感染拡大のため、R2 年 6 月現在休止中

課題と今後の方向性

○令和 2 年 1 月以降、新型コロナ感染拡大があり熟年者にとって社会参加と交流の場である地域ミニデイは休止を余儀なくされている。このような新興感染症発生時にも対応できるような「新しい生活様式」に沿った運営についての検討も必要である。

(8) 出前健康講座の実施

熟年者を対象に地域に出向き、日常の健康生活・運動器の機能向上・口腔ケア・栄養等について、健康講座をとおして知識を深め、健康意識の向上を図り健康長寿の一助とした。

出前健康講座			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	15 回 300 人	15 回 300 人	15 回 300 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
14 回 314 人	12 回 288 人	17 回 596 人	5 回 100 人

課題と今後の方向性

○健康長寿の一助となるよう健康講座を継続し、熟年者が健康への知識を深め、意識の向上を図っていく。

(9) リハビリテーション支援の実施

疾病、加齢などによる身体機能障害のために日常生活に支障がある方に対し、生活の質の向上や自立、社会復帰、疾病予防、フレイル予防などをめざし、相談を行った。本人・家族およびその支援者に対し、医療・福祉の関係者と連携して健康づくりを支援した。

言語リハビリ教室			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	38 回	38 回	38 回
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
38 回	38 回	38 回	廃止
リハビリ・運動相談回数			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	700 回	700 回	700 回
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
774 回	730 回	660 回*	500 回*

*新型コロナウイルス感染予防のため令和 2 年 3 月から訪問及び面接でのリハビリ・運動相談を中止している。(令和 2 年 6 月現在も継続中)

課題と今後の方向性

○「言語リハビリ教室」は医療機関や介護保険サービスが充実してきたため令和元年度をもって終了した。
○相談事業では健康づくりの方法を助言するとともに、社会参加に向けた支援を関係機関と連携して行っていく。

<新> (10) フレイル予防の推進

フレイルの概念の普及と早期の気づきを促すとともに、予防の取り組みへの働きかけや実践のための支援を行った。

健診を活用したフレイル予防の普及啓発			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	80,000 人	79,000 人	78,000 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
- 人	75,070 人	74,244 人	78,000 人
えどがわ筋力アップトレーニング出張講座			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	- 回	35 回	85 回
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
- 回	- 回	105 回	50 回*
フレイル予防セミナー			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	- 回 - 人	- 回 - 人	- 16 回 - 640 人
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
- 回	- 回	- 回	16 回
健口体操の普及啓発			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	充実	充実	充実
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
11,500 人	26,713 人	25,668 人	26,000 人
「栄養かぞえ歌」普及			
	平成 30 年度計画	令和元年度計画	令和 2 年度計画
	充実	充実	充実
平成 29 年度実績	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度見込み
FH 推進員に周知	FH 推進員に普及 熟年人材センター くすのきカルチャー で普及	FM えどがわで放送 熟年文化祭・地域 まつりで普及 FH 推進員を中心に 地域ミニデイサー ビスで普及	FM えどがわで放送 熟年文化祭・地域 まつりで普及 FH 推進員を中心に 地域ミニデイサー ビスや通いの場で 普及

*新型コロナウイルス感染予防のため令和 2 年 3 月から「えどがわ筋力アップトレーニング出張講座」は中止している。(令和 2 年 6 月現在も継続中)

課題と今後の方向性

- フレイル予防(社会参加・運動・栄養・口腔)を実践するための多様な機会の提供と住民が住民を支える地域活動への継続的な支援が課題である。
- 保健事業と介護予防事業の一体的な実施を視野に入れ、地区の特性もふまえて、地域関係団体等と共に取り組みを推進していく。

高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（概要）

資料 7

現状と課題(イメージ図)

退職等

75歳

医療保険

国民健康保険の保健事業 (区市町村)

- 特定健診・特定保健指導
- 重症化予防（糖尿病対策等）
- 区市町村独自の健康増進事業等と連携した取組

後期高齢者広域連合の保健事業 (広域連合。区市町村に委託・補助)

- 健康診査のみの実施がほとんど
- 一部、重症化予防に向けた個別指導等も実施

国保と後期高齢者の保健事業の接続の必要性
(現在は、75歳で断絶)

フレイル状態に着目した疾病予防の取組の必要性

65歳

保健事業と介護予防の一体的な実施

介護保険

介護保険の介護予防・日常生活支援総合事業等（区市町村）

- 一般介護予防事業
- 介護予防・生活支援サービス事業
訪問型サービス、通所型サービス、介護予防ケアマネジメント

→保健事業との連携による支援メニュー充実の必要性

(厚生労働省通知「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の施行に向けた体制整備等について」添付資料より一部改変)

医療専門職(区の保健師)が次の役割を行う

- ① 医療・介護のデータを活用し、地域の健康課題を分析
- ② 事業の基本的方針を策定し、事業の企画調整を行う
- ③ 関係機関（医師会等）との調整



現場の専門職(保健師・栄養士・歯科衛生士等)が事業を実施（委託も可）

(1) ハイリスク者への個別支援

※ ア)~ウ)から1つ以上を行う

- ア)重症化予防事業(低栄養・生活習慣病等)
- イ)重複・頻回の受診や服薬への指導
- ウ)健康状態不明高齢者の把握・支援

(2) 通いの場等への積極的な関与

- ア)フレイル予防に関する健康教育・健康相談
- イ)フレイル高齢者の生活機能を向上する保健指導
- ウ)健診・医療・介護サービスの利用勧奨

生きがい施策の推進

生きがい施策 ～「生きがい」は「生きる力」～

多様な就労

- ◇就業
 - ◇シルバー人材センター
 - ◇NPO
 - ◇就労的活動
- など

地域の『通いの場』・『活動』

地域活動・趣味活動

- ◇くすのきクラブ
- ◇町会・自治会活動
- ◇リズム運動
- ◇カルチャー教室
- ◇サークル活動
- ◇地域ミニデイサービス
- ◇ウォーキンググループ など

役割のある活動

- ◇ボランティア
- ◇総合人生大学
- ◇熟年介護サポーター
- ◇家族や仲間うちでの役割 など

◆医療専門職による
通いの場等への積極的な関与

◆なごみの家、熟年相談室等による
新たな住民主体の活動の立ち上げ支援

状態の把握ができている人

介護予防施策
利用者

健康づくり
施策利用者

要支援・
要介護認定者

健診(検診)
受診者

◆医療専門職による
ハイリスク者への個別支援

社会参加
していない人

または

状態の把握が
できていない人

その中で
リスクがある人

◆民生委員をはじめとした
地域支援ネットワーク
(協力団体39団体)や
近隣住民からの情報

アウトリーチ支援

社会参加へ

☆ 社会参加や
必要なサービスに
つなげる

江戸川区の地域共生社会構築への取組 (なごみの家 運営事業)

江戸川区社会福祉協議会
江戸川区福祉部

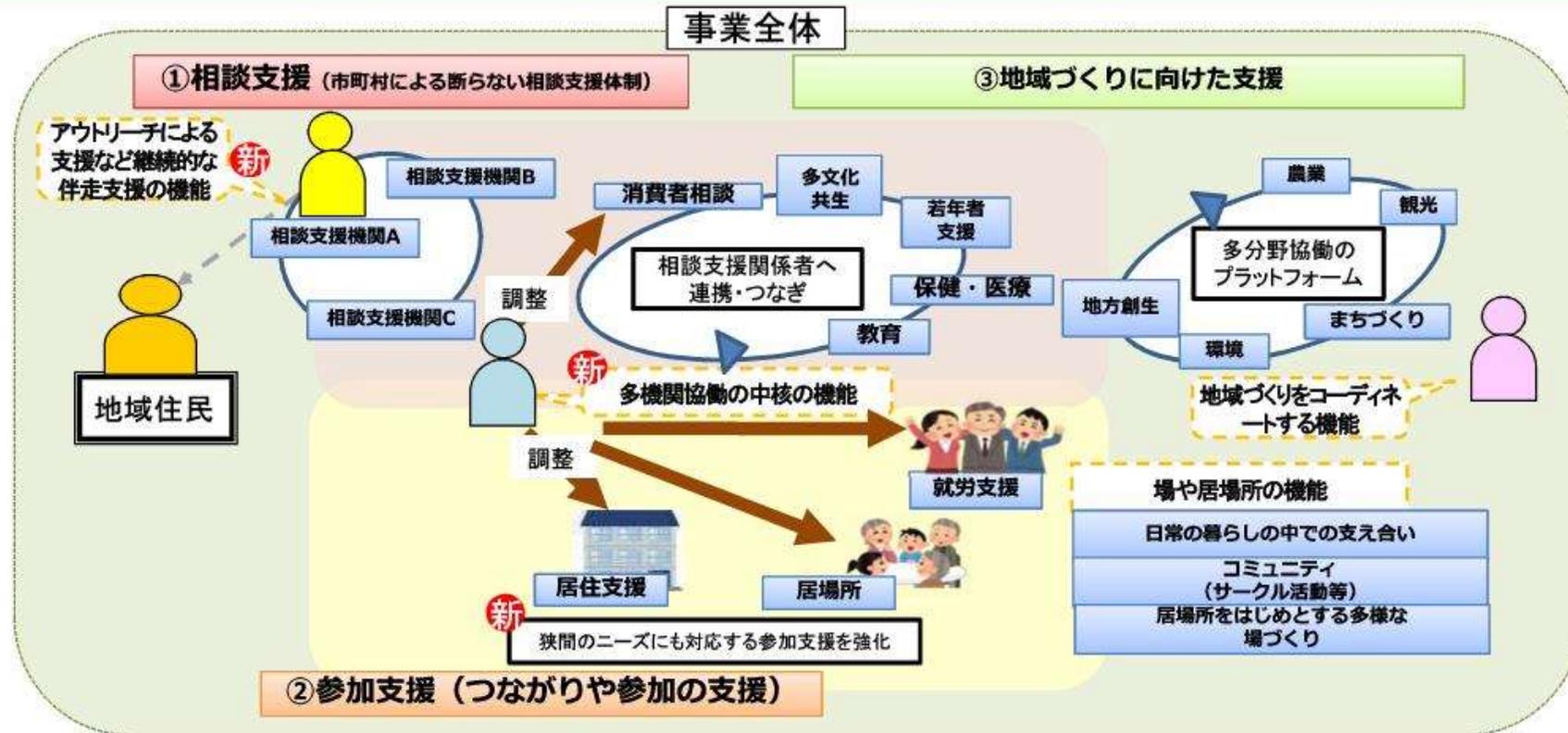
「重層的支援体制整備事業」の創設（厚生労働省資料）

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する市町村の包括的な支援体制の構築の支援

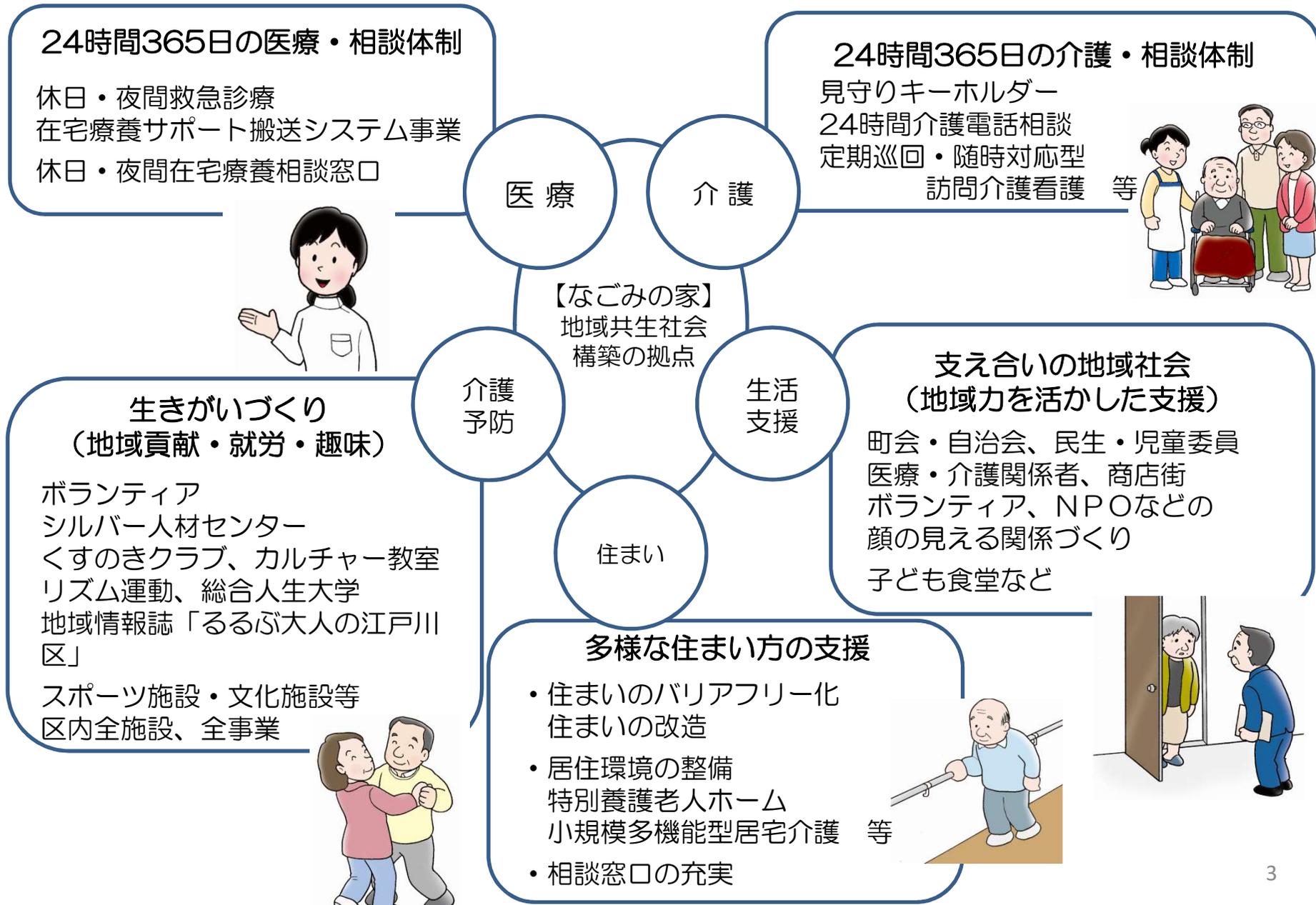
- 地域住民が抱える課題が複雑化・複合化(※)する中で、以下のような課題がある。(※)一つの世帯において複数の課題が存在している状態(8050世帯や、介護と育児のダブルケアなど)、世帯全体が地域から孤立している状態(ごみ屋敷など)
 - ・ 従来の属性別の支援体制では、対応が困難。
 - ・ 属性を超えた相談窓口の設置等の包括的な支援体制の構築を行う動きがあるが、各制度毎の国庫補助金の制度間流用にならないようにするための経費按分に係る事務負担が大きい。
- このため、市町村が包括的な支援体制を円滑に構築できるような仕組みを創設することが必要。

社会福祉法に基づく新たな事業の創設

- 市町村において、既存の相談支援等の取組を活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、①相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を実施する事業を創設する。
 - － 事業実施の際には、①～③の支援は全て必須
 - － 新たな事業は実施を希望する市町村の手あげに基づく任意事業
- 新たな事業を実施する市町村に対して、関連事業に係る補助等について一体的な執行を行うことができるよう、交付金を交付する。



地域共生社会構築に向けた江戸川区の取り組み



なごみの家の3つの機能

[スタッフ]
CSW 2 看護職 1
管理スタッフ 1~2

なんでも相談

身近な窓口として、どんなことでも気軽にご相談ください。
専門スタッフが対応します。

なごみの家は地域の拠点として様々な方々と連携し、地域特性を踏まえ、顔の見える関係の中でまちづくりを進めていく。



子どもから熟年者まで 誰でも集える交流の場

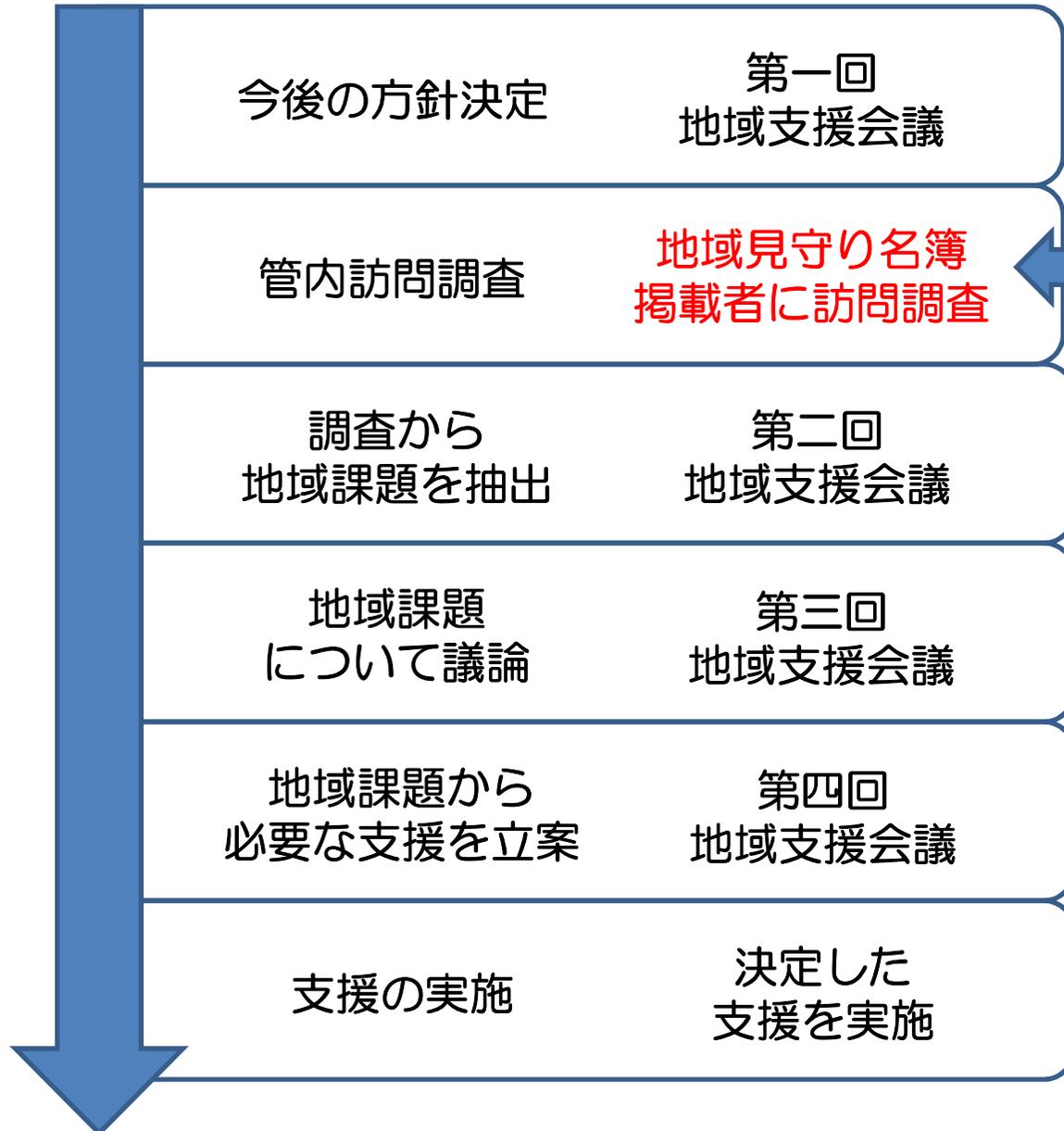
「散歩の途中にちょっと寄り道」
気軽に立ち寄っておしゃべりできる地域の交流の場があります。
お子さんへの食事の提供も行います。



地域のネットワークをつなげます

町会・自治会、民生・児童委員、医師やケアマネなどの医療・介護事業者、警察・消防、地域のボランティアなどが地域の皆さんのために協力関係を築き、支えあい、助けあいの支援を行っていきます。

地域支援会議の流れ



地域見守り名簿訪問数

地 区	対象者 (訪問数)
小 岩	2,561人
松 江 北	1,528人
長島桑川	440人
鹿 骨	1,849人
北小岩	777人
瑞 江	1,581人
葛西南部	403人
小松川平井	1,855人
一之江	710人
合 計	11,704人

○主な地域支援会議出席者

町会・自治会関係者、民生・児童委員、
くすのきクラブ関係者、ファミリーヘルス推進委員、熟年相談室、
ケアマネ、医師会、歯科医師会、
薬剤師会、医療関係団体、介護関係団体、
商店街、NPO、ふれあい訪問員、ボランティア、
警察・消防、江戸川総合人生大学など

○地域支援会議にて決定した取り組むべき地域課題

なごみの家
「小岩」

見守り支援活動
居場所支援

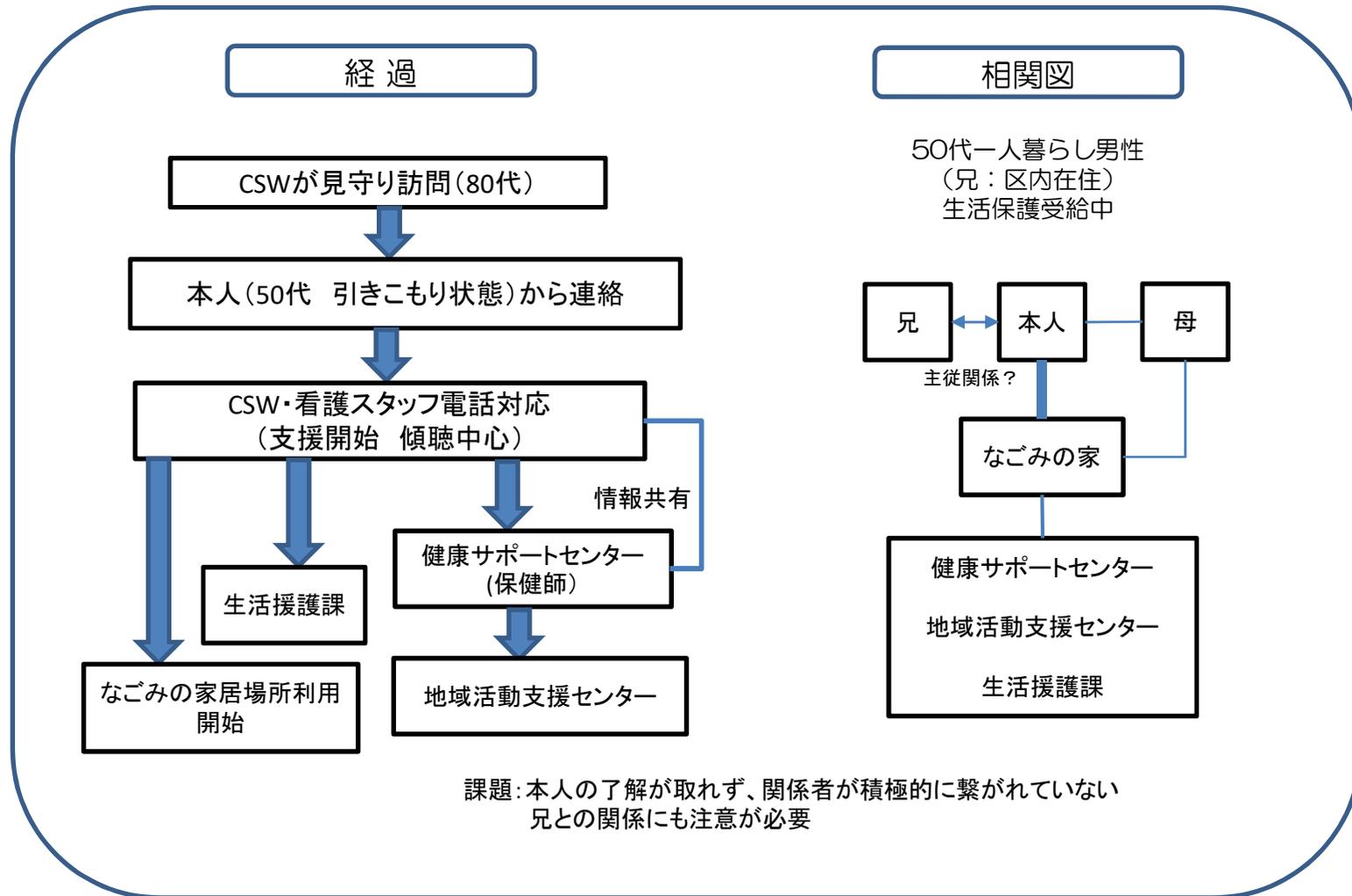
なごみの家
「松江北」

見守り支援活動

なごみの家
「長島桑川」

見守り支援活動
居場所支援

見守り支援活動から顕在化した8050問題



なごみの家の取組から派生した活動

「居場所」の取組から

地域資源マップづくり
にこにこ運動教室
編み物サロン
手話講習 等

「何でも相談」の取組から

ゴミ屋敷改善の支援

「地域のネットワークづくり」の取組から

認知症についての講演会（江戸川区医師会）
お薬相談会（江戸川区薬剤師会）
発達障害についての講演会
（発達障害相談センター）
見守り支援活動セミナー
居場所としてのサロンの開設（町会自治会）
ボランティアによる見守り支援活動
認知症カフェ

「なごみの家」の現況と今後の方向性

【設置件数・来所者数】

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
なごみの家設置数	3 か所	4 か所	8 か所	9 か所
居場所・通いの場 (来所者数)	13,054 人	25,102 人	70,007 人	75,432 人

(1) 断らない相談支援

本人・世帯の属性にかかわらず受け止める相談支援を実施。

◇地域の様々な相談を受け止め、自ら対応または関係機関につなぐ機能

◇多機関協働の中核の機能

◇アウトリーチによる支援など継続的な伴走支援の機能

なんでも相談	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
相談件数	1,867 件	4,906 件	5,570 件
うち、多機関が関わる相談の 件数	(17 件)	(152 件)	(55 件)

(2) 参加支援（つながりや参加の支援）

多様化・複雑化した生活上の課題をもつ世帯に対し、多機関をむすび調整する役割を担い、課題の解決のに向けた取り組みを実施。本人・世帯の状態に寄り添って、社会とのつながりを回復する支援を実施。

地域や関係機関との連携	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
多機関協働による個別支援の ケース会議開催数	11 回	41 回	48 回
なごみの家でのボランティア 延人数	一人	一人	2,663 人※

※ 令和元年度から実績を把握

(3) 地域づくりに向けた支援

地域社会からの孤立を防ぐとともに、地域における多世代の交流や多様な活躍の機会と役割を生み出す支援。地域ニーズの調査により課題を把握し、地域の関係者による議論と考え方等を共有するプロセスを経て、見守り支援や居場所づくりなどの活動を創出している。

- ◇住民同士が出会い参加することのできる場や居場所の確保に向けた支援
- ◇ケアし支え合う関係性を広げ、交流・参加・学びの機会を生み出すコーディネート機能

住民主体の活動創出	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
見守り支援活動の実施	—	—	832件※
町会会館等を活用した 居場所の新設（開設数合計）	2か所 （2か所）	2か所 （4か所）	0か所 （4か所）
おでかけマップの作成	1件	1件	2件
来所者の発案による サロン活動	写真教室、 編み物サロン 等多数開催	音楽サロン、 折り紙等多数 開催	ペン字、葉書 絵、初心者体 操等多数

※ 令和元年度から実績を把握

課題と今後の方向性

- 乳幼児のいる世帯から熟年者まで、障害の有無を問わずに生活の課題を抱えた方々の相談を先ずは受け止め、関係機関と協働して継続的に関わっている。今後は、相談を受け止めることにとどまらず、地域と連携して潜在化している個別支援のニーズを掘り起こすことが求められる。
- 生活上の課題をもった方や世帯は地域から孤立していることがあるが、本人の状態に寄り添い地域とのつながりを回復する取組を進めるために、なごみの家の居場所機能を活用することが考えられる。
- また、地域住民が地域づくりを主体的に取り組む仕組みづくりの拠点として、なごみの家を運営しているが、なごみの家が地域に浸透するに従い、住民の発意による活動が生まれつつある。後発のなごみの家の取組についても相応の労力と時間はかかるが、同様のプロセスを経て地域づくりに資する支援を始めている。
- 課題としては、地域住民が地域の課題を「我が事」として解決する地域となっているかを測る指標が必要となる。そのための取組として、なごみの家が取り組んできた「相談支援」「地域支援」について各所で実践してきた事例を振り返ることにより、指標とすべき要素を検討していく。
- 地縁団体をはじめとするあらゆる関係者・関係機関と重層的な支援体制を構築し、誰一人取り残さない地域づくりを進めていく。